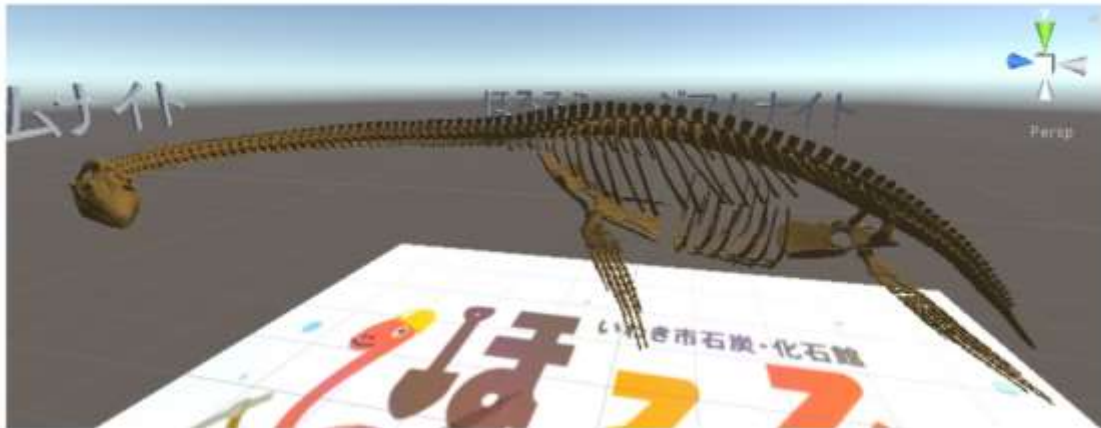


スマートフォンをセットした専用眼鏡をのそくとフタバスズキリュウの骨格に近づくことなどができ、360度楽しめる



「フタバスズキリュウ」3Dに

ほるる・VR体験会

いわき市石炭・化石館ほるるで19日、仮想現実(VR)技術を活用して同市で化石が発見された首長竜「フタバスズキリュウ」を3Dで見ることができ、体験会が開かれ、子どもたちが3D映像を楽しんだ。

映像は同市で3Dなどの映像を手掛けるバーチャル・ハーモニーが制作。同社は同館の協力で、フタバスズキリュウの全身骨格をスケッチや写真を基に3Dデータ化し映像を作り上げた。多くの人にVR技術に触れてもらい、興味を持ってもらうと体験会を企画した。スマートフォンに専用眼鏡を装着し、のそくと映像を楽しめる。子どもたちは専用眼鏡をかけ、「フタバスズキリュウ」の全身骨格を下から観察したり、背中に乗ったりと、普段はできない体験に驚いていた。

専用眼鏡でフタバスズキリュウを観察する子どもたち



下郷町の小学2年生佐藤穂波さん(7)は「目の前に本当の恐竜の骨があるようで楽しかった」と興奮気味に話した。